

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373000906		
法人名	有限会社ひかりサービス		
事業所名	グループホームジョイア永覚 本館		
所在地	愛知県豊田市欠畑20番地1		
自己評価作成日	平成28年9月1日	評価結果市町村受理日	平成29年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosyoCd=2373000906-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成28年10月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年の目標は、ご利用者様個人の外出支援に取り組んでいます。お墓参りやおしゃれをしての外出、元教師だった方は小学校にも出かけていきました。昔の思い出の場所や今だから行きたい所などに掛かっています。ご家族様からの情報もあり今後も続けていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム建物の構造はユニットにより異なっているが、それぞれのユニットに利点があり、利用者が同じようにゆったりとした生活が継続できるような支援が行われている。運営法人では、複数のグループホームの運営を行っており、法人による職員研修が充実しており、職員の資質向上に向けた取り組みが行われている。ホームでは、ホームの目標として、利用者の外出支援に取り組んでおり、季節に合わせた外出が行われている。他にも、利用者一人ひとりの意向等を確認しながら、馴染みのある場所に出かける取り組みや温泉に出かける等、個別の外出支援の取り組みも行われている。また、医療面での連携を深めながら、利用者の看取りに向けた取り組みも行われており、利用者の身体状態に合わせた家族との話し合いが行われており、利用者の中にはホームで最期を迎えた方もいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	現在、朝礼時に新館、本館合同で理念を唱和している。	理念を職員間で唱和しており、理念の共有と実践に取り組んでいる。理念については、以前の運営法人の理念を引き継いでいるが、新たに引き継いだ運営法人によるスローガン等も唱和する取り組みが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	今年も前区長様から紫蘇を頂き、グループ全体に配り紫蘇ジュースを作りました。散歩に行く際は、ゴミ袋を持って行ったりしている。	町内会に入り、地域の運動会への参加等、交流の機会をつくっている。現状、地域の方との交流の機会は限られているが、定期的に喫茶を行っており、地域の方にホームを知ってもらう取り組みを継続している。	ホームでは、地域の方との交流に前向きであることや、共用型のデイサービスを実施していることもあるため、現状の取り組みを継続しながら、地域方との関係が深まることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議で出席して下さる区長様や民生委員の方には、理解を得ているが、地域の方への発信はしきれていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催している。区長様、民生委員様、包括様、ご家族様に参加して頂きいろいろな意見を頂いている。貴重な意見はサービスの向上に活かしている。	会議の際には、複数の地域の方が出席しており、地域の方との情報交換の機会にもつながっている。また、運営推進会議後にカフェを行うことがあり、地域の方をはじめ、利用者との交流の機会にもつなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市役所の方とは、わからない事や相談など、その都度行っている。助言や指導を真摯に受け止め次に活かしている。	市内の介護事業所が集まる連絡会に出席しており、情報交換につなげている他、市の介護相談員を通じた情報交換も行われており、不明点等の解決につなげている。また、地域包括支援センターが行っている会議にホームからも出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	新館は、建物の構造上施錠は行っているが、ご利用様の行きたい時にスタッフは同行している。本館は、施錠はしていないので常に入出りが自由になっている。	ユニットにより建物の構造が異なっている事で、施錠等の対応が異なっているが、ホーム内にはいずれも施錠を行っていない。また、運営法人を通じた職員の研修会の機会をつくっており、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待の聞き取りを行っている。どんな小さい事も管理者に上がってきている。不適切ケアの段階で指導している。その都度施設長へ報告は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在この制度を利用されている方はみえないが職員には管理者が勉強会に参加した時に伝えているが十分ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には時間をかけて説明し理解を得ている。法改正の時なども十分に説明し同意書も頂いている。家族様の質問やご不明な点にもお答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様からの意見は面会簿に記入欄があり、そこに書いて頂いたり、直接お会いした時に伺うようにしている。運営推進会議の場でご家族様からの意見を外部に発信できる体制は整えている。	ホームで開催している行事の際には家族にも参加を呼び掛けており、家族との交流の機会をつくっている。家族からの要望等については、ホーム管理者の他にも法人代表者が対応している。また、毎月のホーム便りと利用者毎の手紙の作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見にも耳を傾けている。常勤職員は職場の改善などを毎月あげていて代表者も目を通していている。いい面が職場に反映できている。	毎月のユニット会議が行われており、職員から出された意見等については、管理者を通じて法人代表者に報告され、運営への反映につなげている。また、管理者による個別面談の機会がつくられており、職員一人ひとりの把握に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	福利厚生に会社は力を入れている。リフレッシュ休暇などがあり職場環境は以前より改善されている。職員の意見も反映してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者は会社の研修に参加し現場に反映している。新入社員も1年をかけて取り組んでいる6つの研修カリキュラムがあり職員全員が参加できるようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者は他事業者との交流や意見交換ができる場があるが、職員には機会がないので現状の課題になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	実地調査の時に本人の要望や日常生活習慣、趣味などを聞いて不安のない生活を送れるよう努めている。入居後でもその都度ご家族様から情報を頂きよい関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様の困っている事や不安に思っている事などをお聞きしサービス向上につなげている。こまめに連絡を取り合いよい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	その時に求めているニーズに対応するようにしている年2回アセスメントを取りその時々で対応もしている。特養などの申し込みも提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	常にご利用者様と生活している事を念頭におき孤立する事なく良い関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月の手紙でご利用者様の状況をご家族様にお伝えし面会時なども職員と一緒に話したり、共にご利用者様を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの店に買い物に出かけたり美容院も昔通っていた所に行っている。関係性が途切れないよう商店も利用している。	利用者の中には、入居前からの関係のあった方がホームに訪問して交流したり、行きつけだった喫茶店に出かけている方もいる。また、かつての職業を通じて、その方の馴染みの場所に出かける支援がホームで行われる等、個別支援にも取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	1人1人孤立しないよう職員が間に入ったり仲の良いご利用者様同士で食事などに出かけている関係作りにも気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用が終了しても交流は続いている。ホームの味覚祭や田楽大会の時にお手伝いに来てくださっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今、個別レクに力を入れているので、その方の行きたい所ややりたい事をお聞きし利用者様主体の生活が送れるように努めている。	職員間で担当制を活用しながら一人ひとりの現状と意向等の把握が行われており、利用者毎にまとめられた申し送りノート等への記載が行われている。また、毎週のカンファレンスの時間がつくられており、職員間の共有に取り組んでいる。	ホームでは、センター方式を活用したアセスメントを始めている。今後、法人全体の取り組みとしたい構想でもあり、ホームでの取り組みを通じて、利用者へのより良い支援につながることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活歴や馴染みの店、利用していたサービス等をアセスメントの時に情報として聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の暮らしの中で身体の様子や心身の状態も把握し少しの変化にも気づくようにしている。食事量や水分量、睡眠なども把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日頃の関わりの中から利用者様の情報は共有するように努めている。センター方式のシートを使い情報をあげモニタリングし介護計画に反映している。	介護計画については、基本6か月毎に見直されているが、状態変化に合わせた見直しも行われている。毎週のカンファレンスを通じた、毎月のモニタリングが実施されている。また、職員は日常的にチェック表に記録を残しており、計画の内容の実践につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	支援経過記録を個別に作り、小さな事も記入するようになってきている。職員は出勤時に支援計画記録をみて情報を把握しケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その都度新たな課題について対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	1人1人の地域資源の活用と事業所を取り巻く地域資源の活用も視野に入れている。図書館・永覚公民館・神社などを主に活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医とは、常に連携を図り適切に医療が受けられるように努めている。看取りの時もあらかじめお願いをした。看護師との連携もはかり異常があった場合は受診に繋げている。	協力医による訪問診療の他にも、状態変化に合わせた往診の対応も行われている。受診支援については、ホームでの対応も行われている。また、法人の看護師がホームに訪問している他、法人代表者も看護師であるため、医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	経過支援記録を中心に介護職員が持っている情報は看護師とも共有し受診につなげている。看護師からのアドバイスも介護現場に活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調不良時には、主治医に相談し早期に適切な医療が受けられるよう入院し、また退院に向けても病院関係者と連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りについて契約時に説明している。今回本館で看取りを行い、家族様とも話し合い納得し看取り支援を行った。主治医や看護師にも協力を仰ぎ支援に取り組んだ。	利用者の看取りを見据えた支援が行われており、ホームでの看取り支援も行われている。協力医による支援も可能な関係が構築されており、状態に合わせた対応につながっている。また、家族とも段階に応じた意向等に関する話し合いが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救命の為の蘇生法は職員全員に伝わっていない。消防の方に来て頂き講習会を開きたいと思います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練は年2回実施している。夜間を想定したシミュレーションは夜勤に従事する職員に管理者から伝えている。	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や通報訓練も実施している。ユニットの建物が離れている為、夜間の職員間の連携にも取り組んでいる。また、備蓄品についてはホームの倉庫内に確保している。	今後、地域で行われている災害訓練に参加する取り組みを予定している。地域の方の関係づくりにも取り組んでおり、相互の協力関係につながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様に対しての声かけは1人1人の尊厳やプライバシーに配慮し行っているが、忙しくなると不適切な声掛けもある。管理者がその都度指導している。	法人の専門の委員会による毎月のスローガンを職員間で唱和しており、職員が利用者への対応を日常的に意識するようにしている。その上で、管理者からの注意喚起等が行われており、気になった際には注意を促すように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中での自己決定はできない部分もある。焦らしてしまう声かけやこちらから答えを促してしまう時もある。一呼吸おく事を職員に伝えていきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1人1人の思いやペースを大事にしその日に何をして過ごすか、その場で決まる事もある。職員は行動力はあるので、そこを伸ばしていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	髪留めを入居当時からされている方は、要介護5になっても毎日している。朝は全員、顔拭きや整髪し身だしなみに気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様が積極的にお手伝いをして下さっている車イスの方は座ってできる事をして下さっている。職員と一緒にいる。	ホームでは、メニューをユニット毎に考えている。利用者も調理や片付け等、出来ることに参加している。日常的なおやつ作りが行われている他、行事等に合わせた食事作りも行われている。また、食事の際には、職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分チェックが必要な方や牛乳を毎日飲まれる方など好きな物をお聞きし提供している。申し送り等で水分量は把握できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、個々に合った口腔ケアをおこなっている。スポンジを使用している2名の方は、職員の方でおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	1人1人の排泄パターンを把握しその方に合った排泄に心がけている。車イスの方もトイレで排泄をされている。	利用者全員の排泄記録を残しており、申し送りをユニット毎に行いながら職員間の情報の共有につなげている。利用者により日中と夜間でパンツ等の対応を変えている方もいる。また、便秘に効果のあるお茶を活用したり、医療面での対応も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	乳製品を食事の時にお出している。柔らかい食事や水分を多くとって頂いて個々に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴は朝早く入られる方やおやつの後がいいと言われる方の思いを大切に支援しています。個々に合わせた対応になっております。	基本週3回の入浴となっているが、利用者によりそれ以上の回数の対応も行われている。時間についても希望に対応する取り組みが行われている。また、季節に合わせた入浴が行われている他にも、利用者により温泉に出かけている方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本館は、介護度も重いので居室で過ごされている方も多いと思います。行事の後などは、1時間ぐらい休まれている方もみえます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者様全員で服薬されており職員も把握には努めているが副作用については勉強不足である。服薬支援に関しては出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者様には、それぞれ役割があり自信を持ってやって頂いている。買い物、畑、昔通っていた商店等、楽しみの継続に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	車イスの方と独歩の方と一緒に散歩に出かけている。温泉地出身の方がみえたので、本人の希望でおいでんの湯に出かける計画がある。家族様や地域の人と協力しながら支援していけたらと思います。	ホームでは、周辺の散歩や買い物等、利用者が日常的に外出する機会をつくっている。季節に合わせた外出行事の他、ホームでは定期的な外出行事に取り組んでいる。また、法人の関連ホームに出かけて足湯を楽しむ取り組みも行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物の際は、お財布を利用者様に渡して本人様にお支払いをして頂いている。お金の事を気にされる方には、金庫からだしてお見せしている。個々で使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本館は電話のやり取りや手紙のやり取りなどあまりみられない。課題です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有空間は混乱がないようにしているが、光に対して不快に思う方がみえるので、昼間からカーテンを閉めたりされる。他の方の過ごしやすい環境も考えなくてはいけない。	ホームの雰囲気はユニットにより異なっているが、それぞれのユニットで利用者がゆったりと過ごすことができるスペースが確保されている。畳スペースについては両ユニットに確保されている。また、季節に合わせた飾り付け等の取り組みが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	1人になれる空間を作っていたが、そこに行かれる方もいなくて、今は、職員とのランチをする場所になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居年数が長い方だと、ご自宅にも使い慣れた家具などもなく、新しく入居された方は、持ってきて頂けるよう声掛けさせて頂いている。	居室についてもユニットで異なっているが、利用者の意向等に合わせた居室づくりが行われていることは共通している。利用者により趣味の本や携帯電話の持ち込みも行われている。また、布団を敷いて生活する等、ベッド以外での対応も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホーム内はトイレ・風呂・等分かりやすく示してある。自分で脱衣カゴに入れて頂けるよう色分けしている。		